

3  
月

Mar. 2023  
沖縄開教本部通信  
vol. 104



※「ハイサイ」…沖縄の言葉で「こんにちは」のこと

## 「沖縄と日の丸」 — 知花昌一氏インタビュー — ④「今、思(しん)じや」

「あれから三十五年、当時を振り返ってどう思っておられますか。」

あの後「像の檻」の運動があつて、読谷村議会議員に立候補した。理由は日の丸を燃やした男、基地反対を叫んだ男が村の中でどれだけの評価があるか問いたかった。当選して三期務めた。

そういった意味でもう一度問うたわけ。あの時は正しかったと思えますかと。正しいかどうかは自分で決めることじやない、周囲が決めることだと。六百名が参加する読谷飛行場所有権回復地主会の代表も勤めた。そういう意味では認められたんじゃないかと思っている。選挙に出るときに村民の一人ひとりが僕をどのように評価しているかを調べたことがある。今も思っていると思うが「割は「過激でとんでもないやつだ」

と思っている。また一割は「あのくらいやってよかったんだ」という人、残りの八割は「気持ちわかるけどやりすぎだ」という人だ。

過激派とレッテルを張られることがあるが、僕は妻子もあるし商売もしているし、商工会の副会長もしている。徒党を組んでもいない一般の人間だ。いまは僧侶になつている。

「国と県の共催により、沖縄復帰五十周年記念式典が開催されたことについて、考えを聞かせてください。」

先日開かれた五十周年の式典については総理の発言を覚えてる。総理は米軍基地の抑止力を維持するといった。それは沖縄全体を基地化するといっているようなものだ。軍事の予算も大幅に増やすといっている。日本の国民は約八十パーセントが安保条約を容認している。安全保障は何に頼るかというアメリカ軍だ。その基地は沖縄に集中している。

「じゃあ沖縄は犠牲になつても

いいという、そういう結びつけができるじゃないかと思う。僕は再度の沖縄戦が起こることを強く懸念している。

以前から構造的差別ということがいわれている。沖縄は明治時代から差別され、沖縄戦がそうだし、サンフランシスコ講和条約もそうだし、今もそうだしということ。

そして日本の国民はこのことをほとんど知らない。自分たちに被害がないから安穩としていくわけ。そして被害は沖縄にくる。安全保障は日本全体の問題だ。それを沖縄に押し付ける格好になつている。そのことを日本国民全体が自覚しなくてはいけない。(おわり)



知花さんが運営する念仏道場「何我寺」(ぬーがじ)

# ハイサイ沖縄

## 「成道会」

二〇二二年一月三日、沖縄別院にて成道会記念講演、そして糸満にある沖縄菩提樹苑で成道会法要が行われた。別院ではまず、沖縄在住の歌手、末広朋子さんによる仏讃歌「みほとけは」他、数曲が披露され、参拝者は皆、その歌声に聞き入った。記念講演は昨年に引き続き渡邊愛子さ

んをお招きし「怨みを超えて」と題してお話をいただいた。仏典童話作家であるご自身の経験やエピソードを交えてお話しいただいた。菩提樹苑での法要は毎年天候に恵まれない。今回は輪をかけて大雨にも見舞われた。それでもお勤めの後は、沖縄菩提樹協会会長の長嶺信夫医師にご挨拶いただき、

雨に濡れながらも菩提樹を囲んで菩提樹の由来の事や、ドライバーマが来沖した際残された言葉の碑などについて解説いただいた。世界でも数少ないインドの菩提樹の分木のあるここ沖縄で、成道会が勤まることは、大変意義深いことだと感じる。

## 「除夜の鐘撞き・修正会」

今年も沖縄別院「除夜の鐘つき・修正会」が勤まった。毎年午後11時45分から鐘撞を始めるのだが、今年は地元の商工会から「その時間には寝てしまう子供たちにもつかせたい」という提案もあり、一九時からスタートして来られた方から順次ついでという形にした。商工会の方がSNS

で情報を拡散してください、初めて鐘をつく子たちからは笑顔がはじけ、思ったより大きな音に目を丸くしていた。年をまたいでの修正会にも「ウイズコロナ」の浸透もあってか、しっかりと対策をした中で多くの参拝があった。以前はバンドを呼んで演奏をしていたのだが、コロナが始まってからは僧侶の勤行だけになっている。し



かしそのお勤めが聞きたいとの声がかかれ、真宗の儀式からお寺に親しみを持っていただけののほろろしい限りである。



## 「流行」

沖縄準開教区 駐在教導 西田和正

世間ではよく、「十年ひと昔」といわれる。私も子供のころから成人になるまでを思ってみると、砂利道だった実家の前がアスファルトで舗装されたり、土間だった台所がフローリングになった。まわりを見てみても、路線バスの椅子の後ろに灰皿がついていた光景を懐かしく思われる方もいるのではないだろうか。

しかし近年、時間の進む感覚は「十年ひと昔」ところか、五年、三年、いや、一年前とは状況ががらりと変わっていることもある。年を取ると一年が早いといわれることもあるが、やはり、IT技術の発展が寄与するところは多大なものである。インターネットを使った情報発信は目まぐるしく次々と先の情報塗り替えていく。食べ物や洋服などは流行り廃りが激しく、今年流行ったものは、一年後にはもうすでに「ダサイ」のである。

若者が流行に乗ってその時を楽しむのは、それぞれの選びなので何も言うことはないが、流行りに乗ることが、そのまま追いかけることとなり、追い立てられることになって、「みんながいいと言っているから」「ついていかないとおいていかれる」と思い始めると少々しんどい。

そんなときは、八百年もの間、「流行って」いる真宗をすすめてみるのもいいかもしれない。